

# 新所沢東 今昔

美原中学周辺移り変わり

# 今日は何の日



お彼岸の入り 9月19日 中日 9月22日 お彼岸のあけ 9月25日  
お彼岸は一週間（春は3月/年2回）

彼岸とは？ あの世にいったご先祖。  
ご先祖の数 父母+祖父母4名+相祖父母8名~~~~  
30歳×30世代 約1000年前のご先祖の数は？

14~5歳 両親は 35歳~ 45歳  
祖父母 65歳~ 75歳  
相祖父母95歳~105歳くらい



## 約900年ほど前（平安時代終わり頃）のご先祖の数

数	代		年齢	生まれた年	
		自分	15	平成9年	1997
2	1	父母	45	昭和42年	1967
4	2	祖父母	75	昭和12年	1937
8	3	曾祖父母	105	明治40年	1907
16	4		135		
32	5		165		
64	6		195		
128	7		225		
256	8		255		
512	9		285		
1,024	10		315		
2,048	11		345		
4,096	12		375		
8,192	13		405		
16,384	14		435		
32,768	15		465		
65,536	16		495		
131,072	17		525		
262,144	18		555		
524,288	19		585		
1,048,576	20		615		
2,097,152	21		645		
4,194,304	22		675		
8,388,608	23		705		
16,777,216	24		735		
33,554,432	25		765		
67,108,864	26		795		
134,217,728	27		825		
268,435,456	28		855		
536,870,912	29		885		
1,073,741,824	30		915		
<b>2,147,483,646</b>		<b>(約21億4千7百万)</b>			

三代さかのぼって  
 (ひいお爺さん)  
 (ひいおばあさん)  
**14人**

30代さかのぼると↓

全長：12m 翼幅：10m

全高：3.5m

全備重量：550kg

エンジン：空冷星型7気筒回転式 50馬力、7000rpm

最大速度：60km/h

定員：操縦：1名（+乗客：2名迄可）



明治44年（1911）6月所沢飛行場で地上滑走中のアンリ・ファルマン機

明治44年開設時  
所沢飛行場



明治44年開設時 飛行機新道は未開通

## 大正初期/今から100年前の陸軍所沢飛行場

新所沢  
東地区

飛行場開設は明治44年4月5日/1911

武蔵野軽便鉄道/大正4年/1915/開通（現在の西武池袋線）

所沢駅/開設/明治28年/1895



# 飛行場の建物 / 大正初期

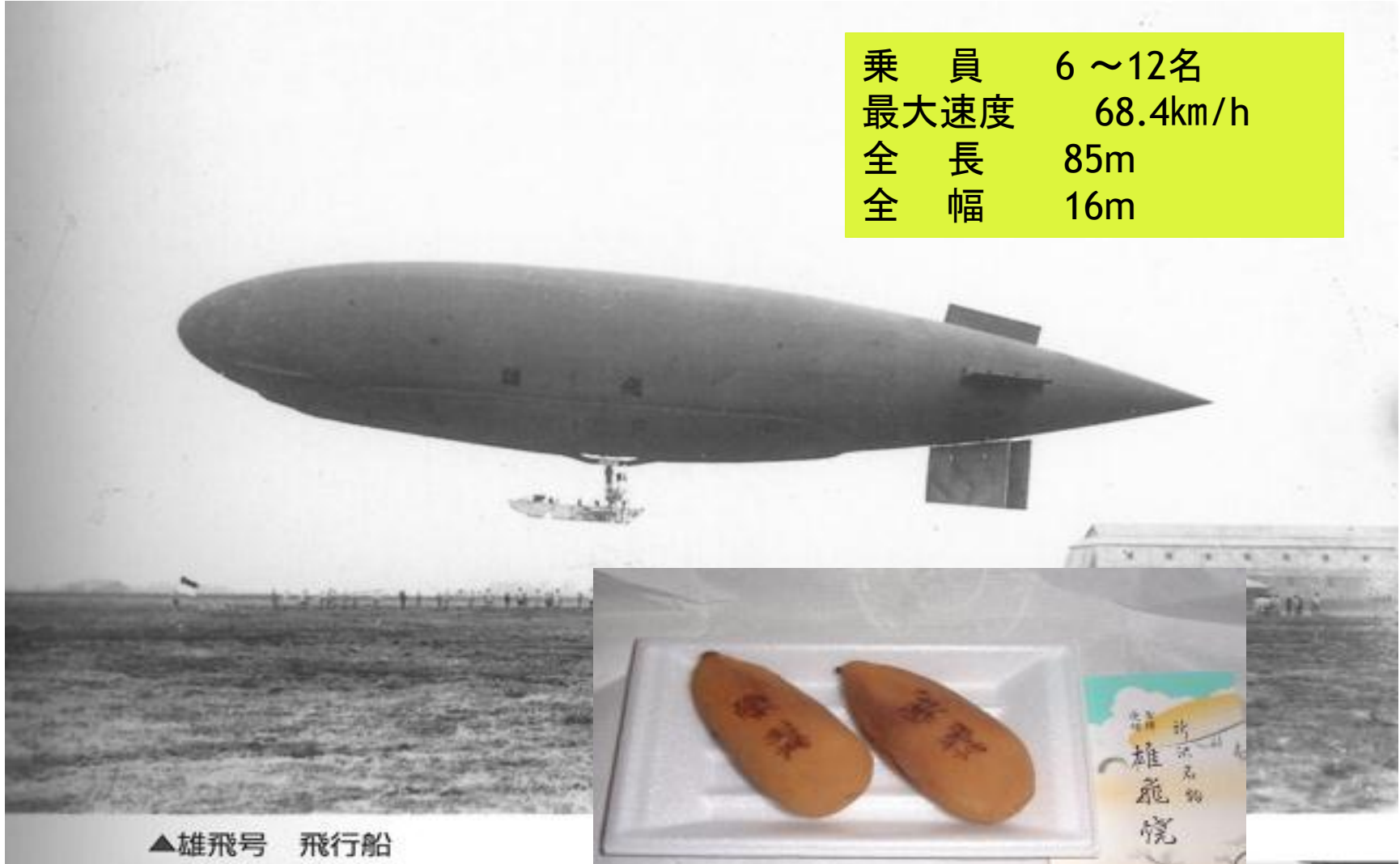


← この建物は何か？



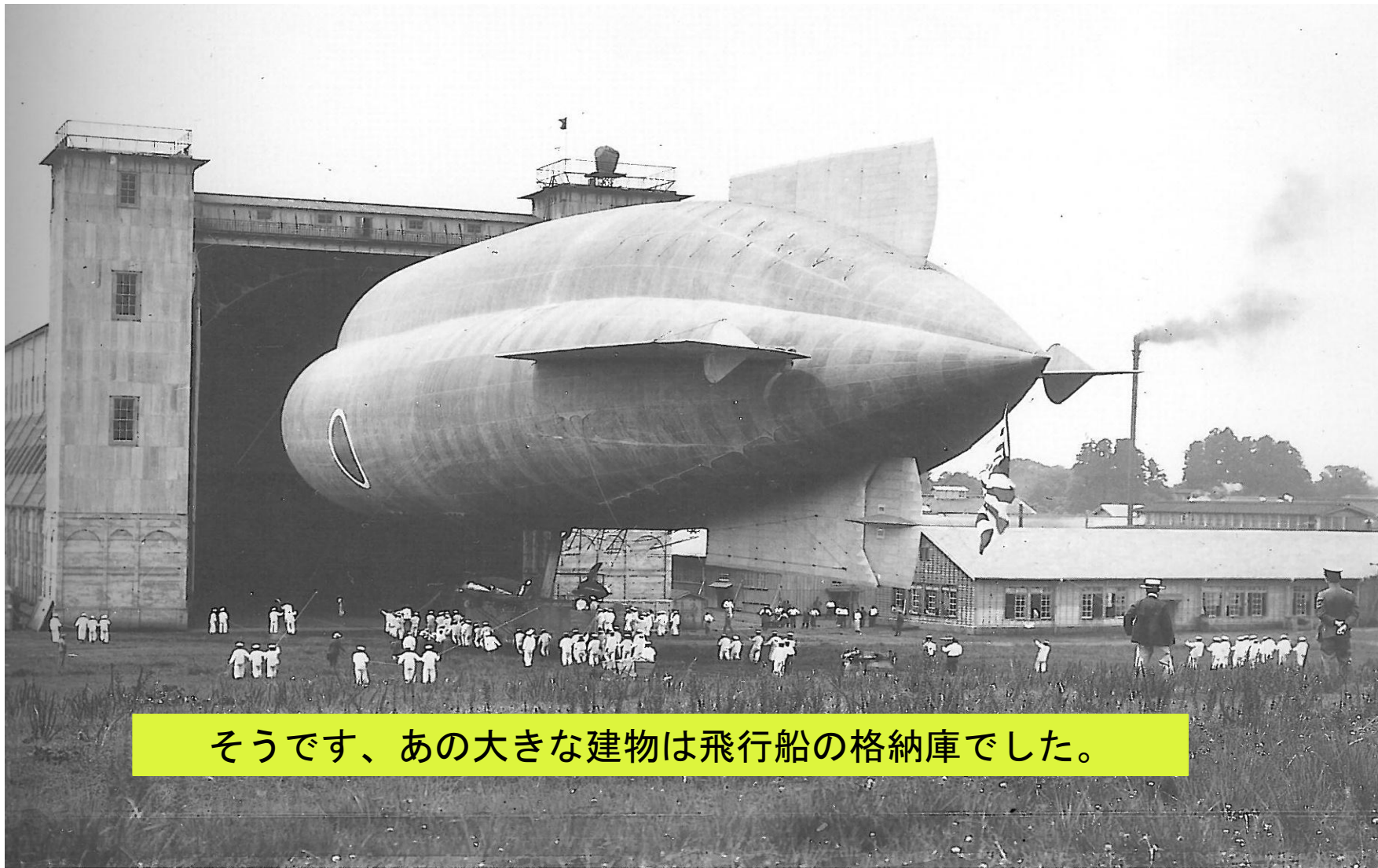
# 飛行船/雄飛号/大正4年（1915）4月21日/所沢飛行場で完成

乗員	6～12名
最大速度	68.4km/h
全長	85m
全幅	16m



▲雄飛号 飛行船





そうです、あの大きな建物は飛行船の格納庫でした。

アストラトーレス2号飛行船：フランスのアストラ社（パリ）製造になるスペイン人トーレス設計の大型飛行船で、大正11年10月に所沢飛行船格納庫において海軍向けに建造された。特徴は気嚢の断面がクローバー形になっていたことである。通称、AT飛行船と呼ばれ、フランスから船で運ばれ所沢で組立られた。陸軍飛行場で海軍の飛行船が作られたことは極めて異例のことだが、霞ヶ浦のツェッペリン格納庫完成前に日本に到着し、たまたま所沢の飛行船格納庫が雄飛号の破損で空いていたため、ここで組立てが行われたもの。



米軍爆撃機カーチス\_SB2C\_

昭和20年7月31日 所沢空襲 死者15名 被害家屋100

昭和20年（1945）8月15日 終 戦

1945年(敗戦から13日後に撮影)

新所沢  
東地区

昭和20年8月15日終戦により  
GHQ (連合軍総司令部) の命によって  
日本のすべての航空活動が全面禁止となった



中新井



掩体壕  
えんたいごう



昭和19年頃の所沢飛行場関連地図

昭和19年～終戦時

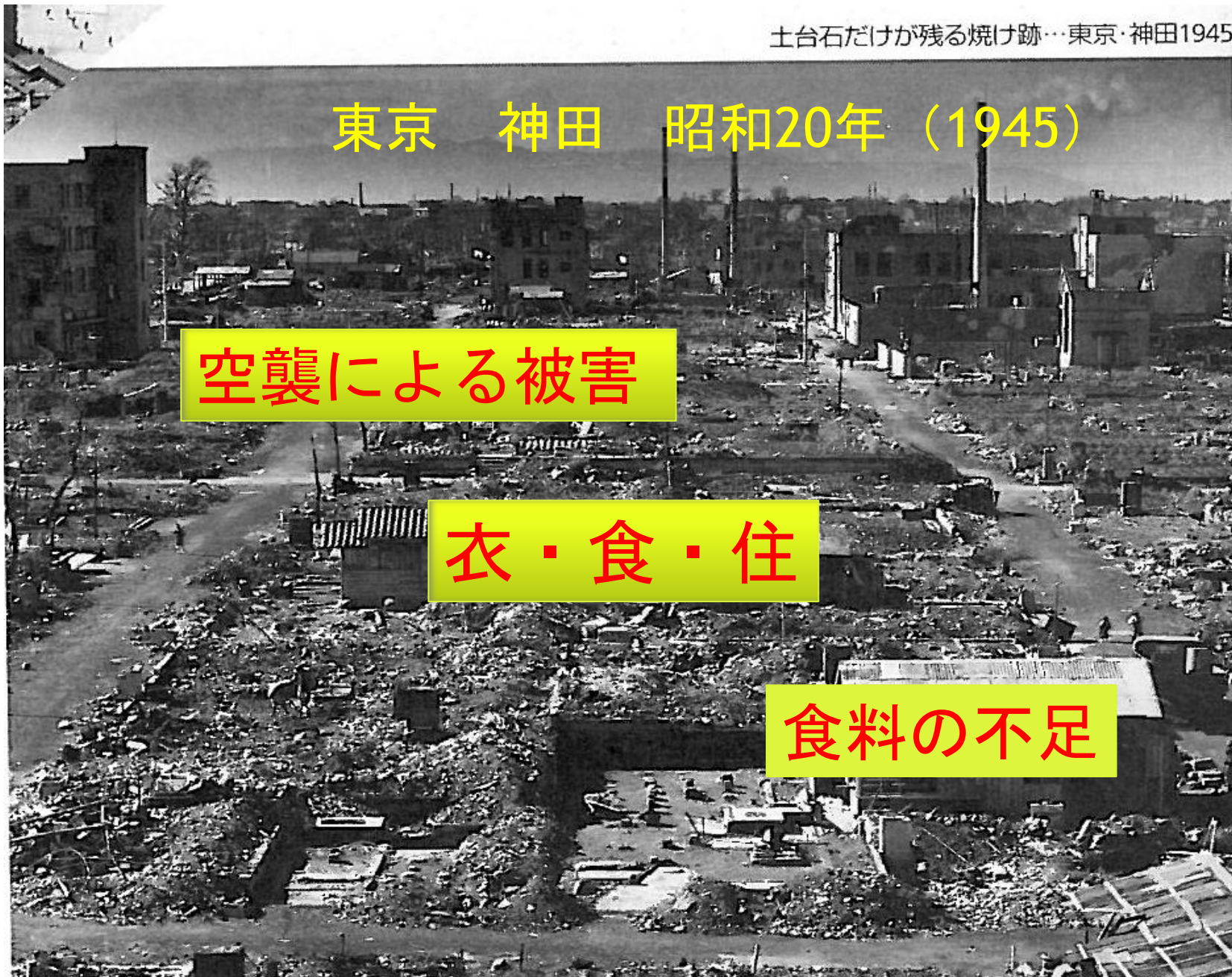
昭和十九年～終戦まで

東京 神田 昭和20年（1945）

空襲による被害

衣・食・住

食料の不足



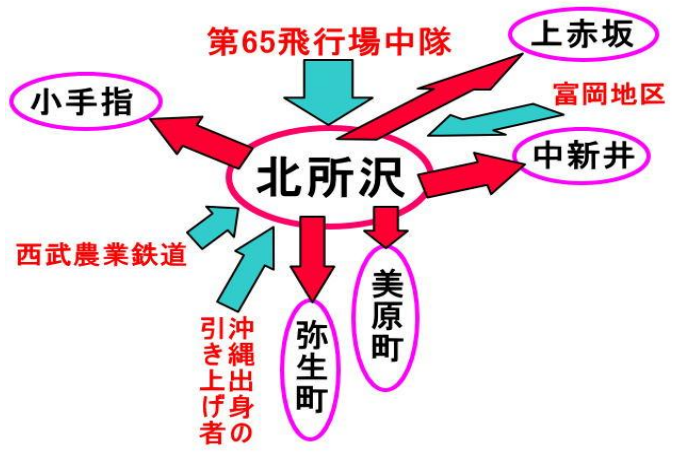
開拓地位置図



食料増産のため  
開拓入植が始まった

昭和20年11月  
開拓事業実施要領閣議決定

↑ 所沢地区開拓/飛行場跡地



昭和二十二年（一九四七）十一月



# 開墾

林の木を伐採し、根を抜き、畑を作る



昭和34年 / 1959 / 台風被害調査の時

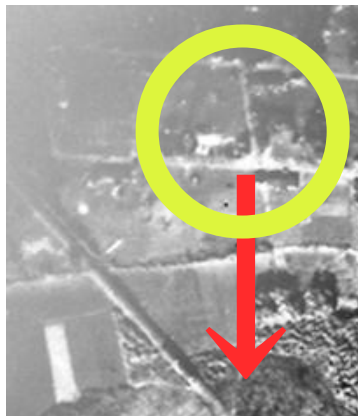




北所沢 / 兵舎 / 共同生活

# 開拓者の移動

北所沢 陸軍兵舎跡を利用



昭和23年頃の天翔部隊の跡地（『長青寺開創三十周年記念誌 清風繚乱』より作成）





昭和31年まで3年ほど電気がない生活

美原町は、  
この2軒のみ

↑ 外にドラム缶の風呂

井戸/水道はないので馬車で水くみに

最初は共同生活でしたが、  
次第に小さな家を立て、それぞれが  
新しい家で生活、開拓、農業を行うようになった。

昭和28年（1953）

## 開拓入植者のグループ（新所沢東地区）

### 興和帰農（通称原農場）

第65飛行場中隊機動部隊の復員者18名、北所沢町、中新井

### 所沢畜産（西武畜産）

秩父出身者、東京出身者、西武鉄道の開拓者募集者、弥生町、美原町

### 豊穰帰農（通称山崎組）

富岡出身、北所沢町

### 玉沖開拓（沖縄出身者）

フィリピン、満州からの引揚者、北所沢、小手指

### 所沢開拓（所沢出身者/中新井）

第1～3の支部あり、第4は興和帰農。第二支部は中新井

### 振農畜産（狭山市堀兼入植）

北所沢から移動、秩父出身者、沖縄出身者

### 上新井開拓畜産（沖縄出身者）

当初、北所沢へ入植した沖縄出身者が、その後、小手指へ入植

## 第65飛行場中隊(開拓入植の時は通称原部隊)

第10飛行師団(天翔師団)の傘下にある中隊。

昭和19年9月23日、安光少佐を部隊長に帝都防衛、連合軍上陸阻止のため調布東部飛行場に移駐。「車両2台、重機4門、弾薬装備携帯、現役兵80名を原中隊長として編成された。

同年11月硫黄島警備のための大隊が組織されるも、出発間際、硫黄島陥落。

3月9日、東京大空襲。 4月1日、米軍沖縄上陸。

4月27日、第65飛行場中隊は所沢飛行場へ移駐。

7月31日、山根衛生軍曹は直撃により戦死。(花園町付近)

8月15日、終戦。

その後、部隊の下士官、古参兵は官物支給私物携帯帰郷。安光部隊長以下、初年兵は残留。所沢飛行場の飛行機の撤去処分。兵器、弾薬、衣料等の管理。進駐するGHQに引き渡すべく処理した。その後、警護監視というこで残留。9月30日終了して監視隊は解散。

この部隊が原弘氏を中心に、18名の人が食料増産のため復員後、直ちに開拓を始めた(後に「興和帰農」)

## 玉沖開拓(沖縄出身者)

埼玉の玉と沖縄の沖をとり玉沖開拓と命名(昭和23年)

昭和20年7月2日、米軍沖縄戦の終了宣言

(90日間の戦闘の犠牲者は23万人)

8月15日、終戦。

11月、沖縄出身引揚者、浦賀収容所へ(フィリピン、満州、マカオから)

昭和21年、外地引揚者300名、川越横川電機宿舎へ移る。

1/21、3/26 60名先発隊、所沢へ。

昭和24年、玉沖開拓(北所沢)設立

昭和24年、振農開拓(堀兼)設立

昭和26年、上新井開拓設立(小手指)

昭和47年5月15日 沖縄諸島本土復帰、再び沖縄県に



## 所沢開拓(通称、西武組)

西武鉄道の開拓事業参入で、募集に応じた開拓者。  
秩父出身者が多い、東京出身者もいる



興和帰農(北所沢)  
原弘氏(左)

所沢開拓(美原町)  
北教男氏(右)  
所沢開拓(中新井)  
越阪部 由氏(中央)

開拓当初  
住んでいた→  
バラック兵舎

昭和30年頃  
(1955)  
北所沢





昭和26年 / 1951頃

雉子熊（きじくま）現在の弥生町



←泉町 緑町→

西武新宿線→

←新所沢  
団地

昭和35年  
(1960)  
弥生町

弥生町/長青寺の西側 緑町方面を臨む



新宿線

新所沢駅

新所沢団地/緑町

北小学校創立/昭和34年4月1日

昭和34年/1959 入居開始

新所沢団地

西口

新所沢駅/昭和39年(1964)

東口





新所沢駅西口/昭和39年(1964)

昭和39年（1964）の新所沢東と米軍所沢基地

花園町

北所沢

美原町

並木5丁目

米軍所沢基地

松葉町

新所沢駅

並木4丁目

弥生町







ニア工場

開拓地（昭和39年、現在の美原町3丁目）

↓戦車がおいてある

↓このあたりが現防衛医大

←基地の監視塔

現/長青寺山門

昭和40年  
(1965)  
弥生町

長青寺境内

長青寺より所沢基地方面（現防衛医大）昭和40年/1965

入間市方面↑  
米軍ジョンソン基地(入間基地)

緑町方面

### 行政道路

昭和27年に結ばれた「日米行政協定」  
により舗装されたため

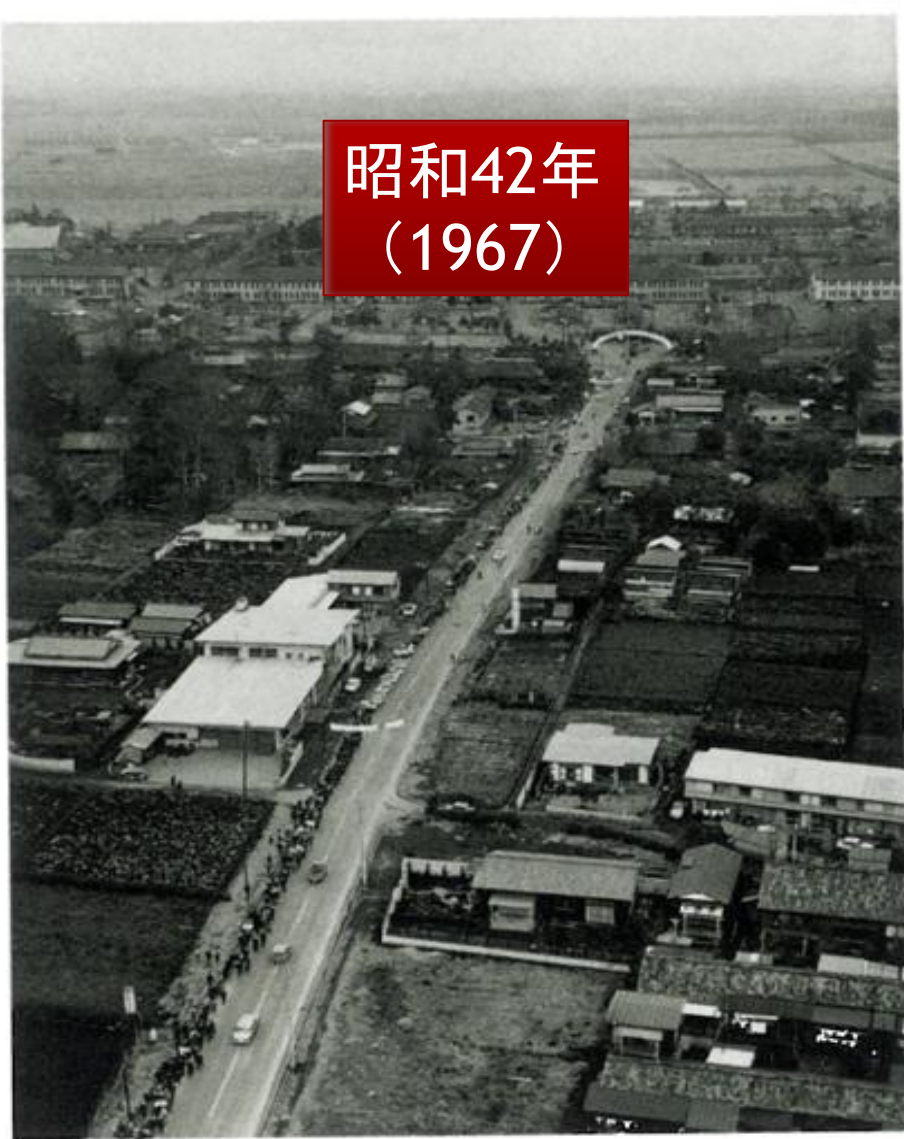
米軍基地 方面→

現/浦所方面 ↓

↓ 星の宮方面

昭和42年/1967/現ドンキホーテ前交差点

昭和42年  
(1967)



基地全面返還市民大行進（昭和42年）

写真右は日吉町商店街を行進する一行。写真左の白いゲートは、現在の「航空記念公園前」交差点の場所にあった。



昭和20年(1945年)米軍に接收される(300.8ha/約91万坪)。

昭和36年(1961年)市議会で基地返還要求の決議。基地対策特別委員会設置。

昭和42年(1967年)市、市議会、各団体による市民大行進。

昭和43年(1968年)所沢市基地対策協議会が発足する。

昭和46年(1971年)第一次返還。基地の約60%/約191.88ha返還される。  
(現在の市役所や航空記念公園などがある並木一丁目から八丁目(六丁目を除く)

昭和53年(1978年)第二次返還。基地南側の現在並木小学校や中央中学校などがある並木六丁目の一部(約9.75ha)が返還。

昭和57年(1982年)第三次返還。基地北側の道路拡幅用地(約1.35ha)が返還され、それまでの一方通行の道から2車線の対面通行が可能となる。

平成4年(1992年)第374空輸航空団司令官に対して返還要望をする。

平成6年(1994年)所沢基地返還運動推進大会開催。

平成8年(1996年)米国国務省を訪れ、国務長官へ返還要望

平成16年(2004年)基地内でディーゼル燃料漏れ事故。埋め戻し作業、同年112月に終了。

平成18年(2006年)東西連絡道路用地の返還要請書(申請書)を提出。

平成24年(2012年)日米合同委員会にて東西連絡道路用地の返還合意。



基地の跡地利用

昭和46年(1971年)  
第一次返還から41年  
(関越自動車道開通)

昭和48年(1973)  
防衛医大開設

昭和49年(1974)  
美原中学校開創

昭和53年(1978)  
航空公園完成

昭和54年(1979)  
国立リハビリ開設

昭和59年(1984)  
現市庁舎業務開始



昭和四十三年五月九日

1968年

WARNING

THIS AREA PATROLED  
BY SENTRY DOGS.

当地域は軍用犬が  
警戒しています。

昭和25年 / 所沢 市政施行

昭和30年 / 柳瀬村と三ヶ島村合併現在の市域となる

昭和34年 / 新所沢団地入居開始

昭和39年 / 東京オリンピック開催

昭和41年 / こぶし団地入居開始

昭和45年 / 小手指駅開業

昭和48年 / 東所沢駅開業

昭和54年 / 西武球場完成

昭和62年 / 航空公園駅開業





弥生町/長青寺本堂

昭和45年（1970）長青寺より東南/米軍基地を臨む




1970/昭和45年/長青寺より南方を臨む





昭和45年（1970）長青寺より北東/基地臨む



基地見張り台



昭和49年(1974)

美原中学校開創

このあたりが美原中建設予定地か？



昭和45年(1970) 長青寺より北北東/基地臨む



← 長青寺 米軍基地 →

1970/S45長青寺墓地東側道路未舗装



左図の5年後/昭和50年(1975)



現在  
2012

昭和48年(1973)  
防衛医大開設

防衛医大病院 ↓

弥生町



1979/昭和54年/基地跡/防衛医大臨む



← 基地跡

長青寺



1979 / 昭和54年



新所沢駅

長青寺本堂

防衛医大病院

1979 / 昭和54年





それでは、もう一度  
65年間の変化を5秒で





新所沢東 今 昔

お わ り